

私たちにとって、手話は言語

手話は、手指や体の動き、顔の表情を使って視覚的に表現する独自の語彙や文法体系を持つ「言語」です。

「手話は言語」であることをみんなが理解した上で、手話を必要とする人が安心して生活することができる地域社会の実現を目指して、本市では今年の4月に「四日市市手話言語条例」を制定しました。



条例のポイント

1 手話は言語であると明記

手話は、物事を考え、コミュニケーションを図り、お互いの気持ちを理解し合うために、また、知識を蓄え、文化を創造するために大切に育まれてきた「言語」であることを明記しました。

2 手話言語を使って安心して暮らすことができる市を目指す

手話言語の理解と広がりをもって、すべての市民が「手話は言語である」との認識に基づき、地域で支え合い、手話言語を使って安心して暮らすことができる市を目指します。

手話の歴史

かつては、相手の口の動きを読み取り、発声する口話教育が主流であり、ろう者が聞こえる人とコミュニケーションを取るためには、口話がより効果的な手段であると考えられていました。そのため、ろう学校で「手話は使えない」と指導されるなど、手話の使用が認められていなかった時代もありました。

その後、社会の手話に対する認識が変化し、国際条約や法律で「手話は言語である」と認められるなど、手話＝言語という考え方が広がりました。

手話言語条例が制定されたことについて、四日市市ろうあ福祉会の皆さんにお話を伺いました

四日市市手話言語条例が制定されて

「やっとできた」と安心した

やっと条例ができたとうれしくなりました。これまでの道のりは本当に長かったです。手話への理解が深まれば、社会の中で安心して手話を使うことができます。ろう者の人たちが聞こえる人たちと同じように日常生活を送ることができる社会になればと思います。

出口さん

ろう者の人たちの中で育まれてきた日本手話

聞こえる人とのコミュニケーションで使用する手話は「日本語対応手話」といい、日本語の文法に合わせた手話です。一方で、私たちが普段使用しているのは、ろう者の人たちの中で育まれてきた「日本手話」です。どちらも手話言語ですが、ぜひ日本手話についても多くの人たちに知ってほしいと願っています。今回、日本手話も言語として認められて本当にうれしいです。

伊藤さん

手話は私たちにとっての「第一言語」

第二言語を取得する感覚で手話を

「日本手話」はろう者の人たちが作り上げてきたものであり、ろう者の文化や世界観が反映されています。私たちにとって手話は母語であり、「第一言語」です。物事を考えたり、感情を表現するときも「手話」で話します。聞こえる人も第二言語を取得する感覚で手話を覚えてほしいし、身近なものだと感じてほしいです。

藤田さん

私たちのことを考えるきっかけに

昨年1年間で市の手話通訳者が派遣された回数は2,400回を超えるなど、手話通訳者の需要は高いですが、手話通訳者の数は未だに少ないです。病院受診や災害で避難した時など、聞こえないことが私たちの命に関わる場合があります。条例の制定が私たちのことを考えるきっかけになればと思います。

出口さん

これからに向けて

ろう者と聞こえる人との交流がすごく大事だと感じています。聞こえる人が、ろう者とコミュニケーションを取る機会はなかなかないので、市が主導してそのような機会を作ってほしいです。

聞こえる人が私たちに手話を使ってコミュニケーションを取ってくれようとする姿を見ると本当にうれしいです。それが間違えていたり、下手でも全く気にしません。私たちの言語を使おうとしてくれているだけで十分です。ほとんどの人が、英語で「Hello」、「Thank you」を言えるように、みんなが「ありがとう」や「よろしく」など簡単な手話ができる社会になればと願っています。



手話が言語として親しまれる機会を増やし、手話を使用しやすい環境を整備するため、市民向けの講座を実施しています

夏休みこども手話教室

小学4～6年生を対象に、毎年夏休み期間に手話教室を開催しています。実際にろう者とジェスチャーなどを使ってコミュニケーションを取る時間を設けることで、こどもたちに手話を身近に感じてもらい、若い世代への手話言語の広がりを目指しています。



参加者にお話を聞きました

耳が聞こえない高校生を取り巻く環境を描いた「^{こゑ}聲の形」という作品がきっかけで手話に興味を持ち、学校の図書館で手話に関する本を借りて自分で勉強をしていました。講座のことを知り、学校で手話を勉強する機会がないので、参加してみたいと思いました。今回、初めて手話を使う人と話しました。身振り手振りや表情でも相手や自分の言いたいことがしっかりと伝わるのが分かりました。耳が聞こえない人にとって一番大切な手話を私たちも同じように大切に、50音すべてを指文字で表せるようになりたいです。

椎名さん